

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 97人 算数 97人 理科 97人

第5学年 国語 122人 算数 122人 理科 122人

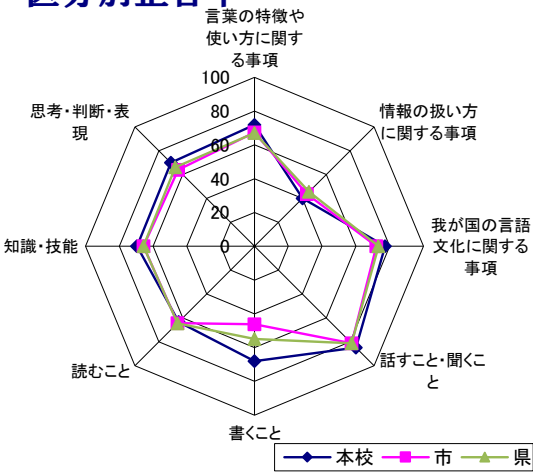
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.9	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	40.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	77.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	84.8	81.2	81.2
	書くこと	68.0	46.2	54.9
	読むこと	63.4	64.3	64.5
観点	知識・技能	69.5	65.7	65.7
	思考・判断・表現	69.9	64.0	66.3



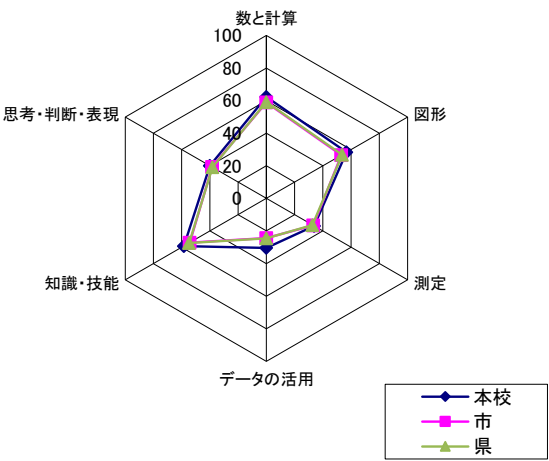
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み書きはよくできており、日頃の漢字練習や小テスト、漢字チャレンジ週間などの成果が表れている。 ○ローマ字に関する問題について、日頃から個人用パソコンを活用したり、タイピングの練習に意欲的に取り組んだりしている成果が表れている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字オリンピックや50問テストなども活用し、漢字練習を繰り返し行いながら、しっかりと定着できるようにする。 ・引き続き、宿題等で言葉の基礎・基本の問題練習などに取り組んだり、日記を書かせたりして語彙の習得や構成を考えた作文が書けるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●一つの言葉でも違う意味があり、時と場合によって意味の違いを見分けることに課題が見られる。	・今後も日常的に国語辞典を使う場面を意識的に増やしたり、読書や読み聞かせなどをしたりすることを通して様々な言葉に触れ合う機会を設けるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や平均を上回っている。 ○漢字のへんやつくりに関する問題は、正答率が77.3%で市の平均を5.2ポイント上回っている。	・新出漢字の学習時に、部首を確認しながらへんやつくりの意味や種類に注目させるようにする。 ・漢字練習の中に部首に関する項目を入れるなど、変化をもたせた漢字練習を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○話し方の工夫を捉える問題では、市の平均を上回っており、自分の考えを理由を挙げながらまとめることができている。 ●話の中心を捉える問題では、市の平均を下回っている。	・話したり聞いたりすることを振り返る場を設定し、自分の成果や課題を捉えることができるようにする。また友達と話す練習をする場を設け、聞き手に伝わる話し方を考え実践できるようにしていく。 ・今後も国語の授業で学習したことを生かして、普段から話を聞くときに自分の聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもって聞けるよう、必要なことをメモしたり、質問したりしながら話が聞けるようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことや指定された長さ、理由や事例を明確にして書くなど、すべて市の平均を大きく上回っている。 ○調べ学習等を通して、理由や事例を挙げて書く活動に力を入れたり、日記を書いたりするなど日常的に自分の考えや気持ちを書く活動を取り入れたことが成果として表れた。	・物語文の学習では、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを考えるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○説明文では、叙述を基に段落の内容を捉えることができています。 ●物語文の叙述を基に場面の様子を捉える問題では、市の平均をやや下回っている。	・物語文の学習では、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを考えていくようにする。 ・読書活動を充実させ、教科書に出てきた作者の本など、つながりのある本を読み、様々な表現に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.3	58.9	59.2
	図形	56.7	53.0	53.7
	測定	33.8	33.1	32.6
	データの活用	30.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	58.5	54.3	54.7
	思考・判断・表現	40.1	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

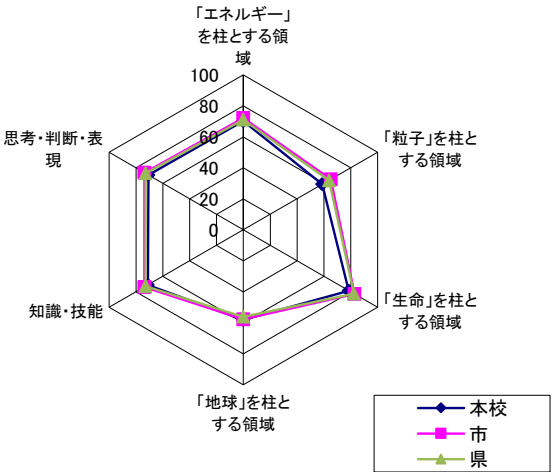
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○分数の表す大きさを答える問題や、整数同士や整数と小数の減法では、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●大きな数の表し方や□を使った式に合った文章を選ぶ設問、余りを切り上げる処理の仕方を説明する設問では、市の平均正答率をやや下回っている。	・日々の授業の中で、計算の仕方を考えたり説明したりする活動を充実させていくようにする。 ・立式する時に、問題場面を図に表す活動や図を基に式に表す活動などを取り入れることで、問題場面を把握し、式と図を関連付けて考えることができるよう指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○三角形や円の性質についての設問では、市の平均正答率とほぼ同じで、図形の基本的な知識・技能が身に付いている。 ●円の性質を利用した正三角形の作図については、市の平均正答率を上回っているが、図形領域では最も低い正答率であった。	・図形の学習の際に、関係図形の性質を復習したり、図形の性質を使った問題に取り組んだりすることで、定着を図ることができるようにする。 ・作図をする場面を意図的に設けるようにするなど、作図の方法を身に付けさせるよう、継続的な指導を行っていく。
測定	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○はかりの目盛りを読み取る設問では、市の平均正答率をやや上回っている。 ●地図から道のりを読み取る設問や、時間と時刻の理解に課題が見られる。	・時間や長さなどの量感を確かなものにするために、身の回りのものの長さや重さ、その単位を意識させながら、生活経験を通して継続的な指導を行っていく。 ・長さや重さの単位のイメージがもてるよう、今後も身近なものの重さや長さの見当を付ける場面を意図的に設定することで、実感を伴った理解を深められるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○棒グラフを読み取り、2番目に多い落とし物を答える設問では、市の平均正答率を上回っている。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し、身の回りの事象について活用できるかをみる設問では、正答率が17.5%で無回答率は39.2%とすべての設問の中で最も高かった。	・調べたものを分類・整理してグラフに表したときに、グラフから読み取れることを伝え合う活動を充実させるようにする。 ・他教科でグラフを扱う場面でもどのようなことが読み取れるのかを考えるようにすることで、他教科にも生かせるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	58.8	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	58.1	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	70.6	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から車が動く距離を推測する問題では、市の平均を上回っている。 ●磁石の性質のうちおもちゃに利用した性質を推測する問題では、市の平均を下回っている。	・磁石の性質について、実験によって得られた事象を言語化し、体験と知識を結びつけることにより確かな理解へとつなげていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っている。 ●形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかをみる問題では、市の平均を下回っている。 ●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考える問題では、市の平均を下回っていて、ものの体積と重さについて課題が残った。	・授業のまとめを行う際に、なぜそのような現象が起きたのかをグループの中で話し合わせる活動を計画的に取り入れ、理解を深めるようにする。 ・実際に手に取って重さを感じてみたり、測定したりするなどの体験をすることを通して確かな理解へとつなげていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○生き物の差異点や共通点を見出すことができるかどうかをみる問題では、市の平均を上回っている。 ●虫眼鏡の使い方を身に付けているかどうかをみる問題では、市の平均を下回っている。 ●植物の芽生えについて理解できているかどうかをみる問題では、市の平均を大きく下回り、課題が残った。	・季節の昆虫や植物について観察する単元では、虫眼鏡の使い方を確認し、からだのつくり注目させながら観察を行うようにする。 ・選択式の問題よりも短答式の問題に課題が見られる。計画的に復習をし、学習した言葉と現象を結び付けた言語活動の場を取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○方位磁針の使い方をみる問題では、市の平均をやや上回っている。 ●影が太陽の反対側にできることを理解し、影踏み動きと結び付けられているかどうかをみる問題では、市の平均をやや下回っている。	・ICTを活用し、実生活と理科の現象を結びつけて学習の理解を深められるようにする。 ・社会の学習で方位磁針を使用するなど、理科以外の教科とも関連付けて、理科の現象に対する理解を深める。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童の肯定的割合は67%で、市の平均を9.3ポイント上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」と回答した児童の肯定的割合は78.6%で、市の平均を10.9ポイント上回っている。学習内容を事前に予習したり、繰り返し復習したりするなど、学習に対して前向きな姿勢が見られる。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある」と回答した児童の肯定的割合は92.2%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。学習したことを受け身ではなく、主体的・能動的に捉えることで自ら問いを見出すことができている。今後も、児童の気づきや疑問を大切にしたい教育活動を推進していきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読むか」の問いで、「一か月に5冊以上本を読む」と回答した児童の割合は66.1%で、市の平均を14.8ポイント上回っている。学級文庫の充実や日頃の授業での図書室の活用の効果が表れている。今後は取組を継続し、学校での読書時間を確保するとともに、「家読(うちどく)」の習慣化を進めていく。

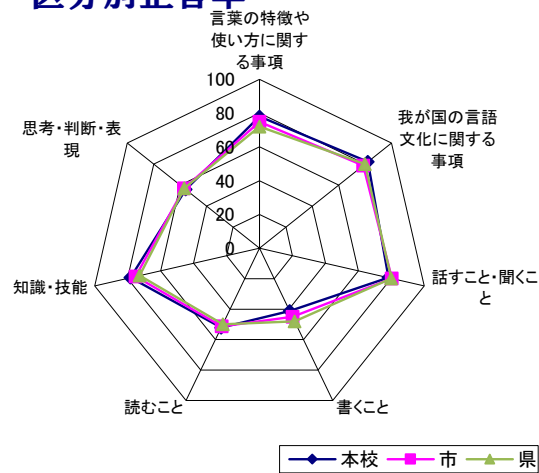
○「先生は、学習のことについてほめてくれている」と回答した児童の肯定的割合は95.2%で市の平均を5.7ポイント上回っている。また、「自分にはよいところがある」と回答した児童も市の平均より7.3ポイント高い。児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達のよさを伝え合う活動を実施してきたことで自尊感情が高められている効果が現れていると考えられる。

●「ふだん、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いか」の問いで、「8時間以上寝ている」と回答した児童の割合は71.8%で市の平均を4.7ポイント下回っている。一方、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりするか」の問いでは、「3時間以上テレビや動画等を視聴している」児童は市の平均を12.4ポイント上回っている。毎日同じ時間に寝る児童も市の平均より少ない。このことから、スクリーンタイムが長い分、睡眠時間を確保できていないことが考えられる。今後は、ノースマホノーゲームデー等の機会を生かして、児童に使い方や視聴時間を振り返らせたり家庭で話し合う機会を促したりする。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	78.3	80.4	80.0
	書くこと	41.2	45.1	48.0
	読むこと	52.1	51.3	50.0
観点	知識・技能	78.3	75.2	72.8
	思考・判断・表現	55.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

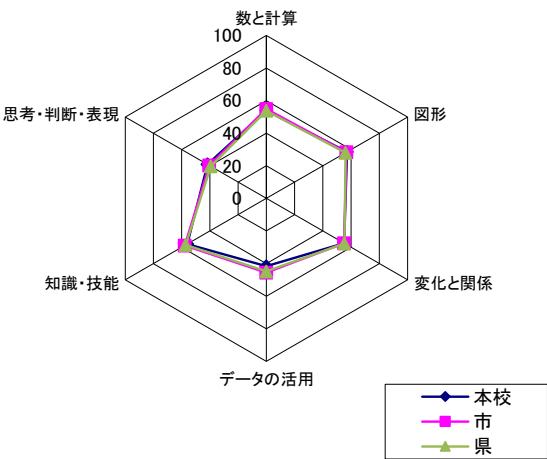
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み書きについて、平均正答率を上回っているものがほとんどだが、設問によってはやや下回るものがあった。漢字オリンピックや50問テストなど、既習漢字の定着に向けた取組の成果だと考えられる。	・漢字オリンピックや50問テスト、小テストなど既習漢字を確実に習得する取組を継続させると同時に、日常の中で児童が文章を書くときには、意識的に漢字を使うことができるよう、日頃から指導していく。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○慣用句についての問題では、平均正答率は、市や県の平均をやや上回っており、理解している児童が多い。	・我が国の言語文化に親しみがもてるように読書と関連付けるなど指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題では、平均正答率がそれぞれ約81%と高い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題では、県や市の平均正答率を下回っている。	・意見を述べるときに、相手を意識して分かりやすい伝え方を工夫したり、理由を付けて話したりすることを継続して指導する。 ・理由や事例を挙げながら自分の考えがまとめられるよう、話し合い活動を行う前には、児童は十分に考える時間を確保する。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○指定された条件で文章を書く問題の平均正答率は市や県の平均とほぼ同じである。 ●指定された条件で文章を書くことはできるが、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことには課題がある。無回答率も22.1%と高い。	・学習のまとめや振り返りを通して、自分の考えをまとめる活動を積み重ねることにより、自信をもって文章を書くことができるようにする。 ・伝えたい内容について、どのように段落を分けて文章にしたらいかを具体的に書き方を例示するとともに、事実と自分の考えを分けて書くことができるよう、文章の構成について、きちんと整理してから書くよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○説明文の叙述を基に内容を読み取る問題において、段落相互の関係を捉え、内容をよく理解できている。 ●物語文で、登場人物の性格や気持ちを具体的に想像することに課題が見られる。	・読書の時間を充実に、様々な種類の文章を読む機会を増やすようにする。 ・物語文について、叙述を根拠にして、登場人物の性格や気持ちを想像しながら捉える練習をすることで、心情や人物の性格等を正しく理解できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.9	54.9	53.7
	図形	57.1	56.6	56.1
	変化と関係	55.1	55.1	55.2
	データの活用	41.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	56.1	57.8	57.2
	思考・判断・表現	41.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

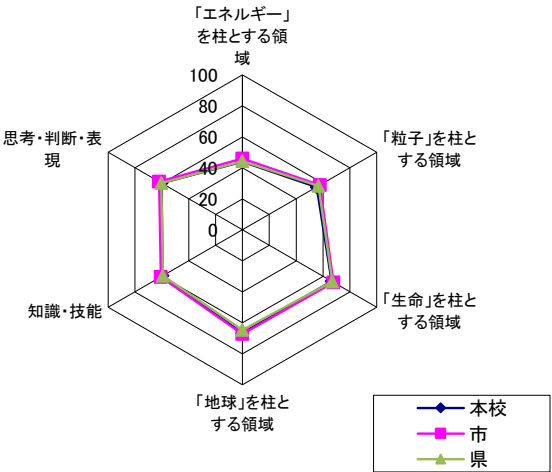
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○分数の計算や小数の掛け算などの基礎的な計算の正答率は、市の平均とほぼ同じである。計算の力はおおむね身に付いている。 ○数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す設問の正答率は、市を上回っている。 ●あまりのある割り算の筆算の計算や大きな数の表し方、小数のしくみについての設問の正答率は、市の平均を下回っている。 ●除法の性質を理解し、計算の工夫について説明する設問の正答率は市の平均とほぼ同じだが、正答率は約20%で、課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習等で、プリントやドリルなどを活用して基礎的な計算の力を高められるよう反復学習を継続していく。また、計算オリンピックの実施やAドリルの効果的な活用にも取り組んでいく。 ・自分の考えを分かりやすく説明する力を身に付けるために、授業中に自分の考えを書く時間を必ず確保することや、グループや全体での学び合いを通して互いに自分の考えについて説明する機会を作り、分かりやすく説明する方法について指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○面積の求め方について、示された求め方を基に正しい式を選ぶ設問の正答率は、市を上回っている。 ●立体の辺と面の位置関係についての設問の正答率は市より低く、課題が見られる。	・図形の作図の仕方について復習するとともに、様々な図形を作図する機会を定期的に設けて定着するように支援していく。 ・立体についての理解が十分ではないため、積み木などの具体物やデジタル教材を活用して面や辺の位置関係について視覚的に理解できるように支援する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と同じである。 ○伴って変わる2つの数量の関係を読み取ったり、2つの数量の関係を式に表したりする設問の正答率は、市とほぼ同じである。 ●割合を使った比べ方について説明する設問の正答率は、約30%で課題が見られる。	・比べ方の考え方について復習プリントなどを活用してよく復習をする。 ・伴って変わる2つの数量について横や縦に見るなどの見方について押さえ、変化を読み取れるように支援していく。
データの活用	平均正答率は市の平均を下回っている。 ○折れ線グラフから必要なことを読み取る設問の正答率は、市の平均を上回っていて、グラフを読み取ることはできている。 ●二次元の表を読み取る設問の正答率は、市の平均より低くなっており、課題が見られる。 ●グラフを読み取り、その変化の様子について説明する問題の正答率は、10%以下で無回答率が5割を超えるなど課題が見られる。	・二次元表の正しい読み取りや理解が不十分であると考えられるため、表の基本的な読み取り方について復習する。 ・読み取ったことを基に自分の考えを書き、グループや全体で互いに話し合ったり説明し合ったりする活動を取り入れることで説明することへの抵抗感を減らし、説明する力を育てていく。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	44.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	66.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	66.6	67.2	64.6
観点	知識・技能	59.5	60.8	59.2
	思考・判断・表現	60.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○簡易検流計の針のふれる向きや針のふれる大きさが電流の大きさを表す問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●並列つなぎのつなぎ方を問う問題では、市の平均正答率を下回っている。	・実験とともに、ICTを活用して知識と具体例を一致させたり、操作させたりすることで知識と関連付けて考えさせるよう、指導していく。 ・実験の結果から考えられることを自分の言葉でまとめたり、説明したりすることができるよう、理由や予想を授業の中で留意して指導をしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○実験の結果からあわの正体を推測する問題については、市の平均正答率を上回っている。 ●空気の温まり方と身の周りの現象を結び付けて考える問題では市の平均を9ポイント、湯気と水蒸気の違いを考える問題では市の平均を7ポイント下回っている。	・実験結果やまとめ、自分たちの生活を結びつけて、正しく理解できるように指導していく。 ・日常場面を取り上げる際にも、なぜこのような現象が起きたのか予想を考えさせる時間を十分に確保するとともに、児童が自分の言葉で説明することができるよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○季節ごとの動物の活動について問う問題では、市の平均正答率を上回っている。 ●季節の順にならべたイチョウの記録を選ぶ問題では、市の平均正答率を下回っている。	・季節とイチョウの様子に関連付けに課題がある児童がいることから、観察活動時間の確保や映像資料の活用をすることで知識の定着を図っていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ○実験の結果から水の流れを読み取る問題では、市の平均正答率をやや上回っている。 ●蒸発の名称を答える問題においては、市の平均正答率を9ポイント下回っている。また、湯気や水蒸気の違いを答える問題では市の平均正答率を7ポイント下回っている。	・身近な理科的な事象に対しての経験が少ないことから、実験やVTR等で様々な事象や場合を想定した現象を考えさせたり、実際に行ったりすることで基礎的な知識を定着させていきたい。 ・実験結果やまとめの際に、ICTを活用して振り返りをしたり、自分の言葉で表現したりして、正しい理解に繋げる。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は99.2%、「学校の宿題は、自分のためになっている。」と回答した児童の割合は93.7%で、肯定的回答の割合が高く、宿題の必要性を感じて取り組もうとする姿勢が見られる。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか。」の質問に対して、「11冊以上」と回答した児童の割合は22.1%で、市の平均を3.3ポイント上回っている。読書に対する意欲が高められているため、引き続き、読書の推進に努めていきたい。

○「国語の学習が好き。」と回答した児童の割合は72.4%で、市の平均を5.1ポイント上回っている。国語の学習に対する必要感があり、学習意欲を高められている。

○「家の人と学校のでできごとについて話している。」と回答した児童の割合は90.6%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。家族との良好な関係を築けていることが伺える。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」と回答した児童の割合は44.9%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は50.4%で、市の平均を11.8ポイント下回っている。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と回答した児童の割合は66.2%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。家庭と連携し、自ら学習に取り組む態度の育成に努めていきたい。

●「自分はクラスの役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は48.8%で、市の平均を17.9ポイント下回っている。また、「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した児童の割合は52%で、市の平均を11.2ポイント下回っている。自己有用感の育成とともに、自信をもって自己表現をすることができるような支援に努めていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味がわからないときは、辞書を使って調べている。」と回答した児童は46.5%で、市の平均を11.3ポイント下回っている。「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」と回答した児童は61.5%で、市の平均を9.8ポイント下回っている。わからない事柄に興味を持ち、進んで調べようとする態度の育成に努めていきたい。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」と回答した児童の割合は60.6%で、市の平均を8.4ポイント下回っている。「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」と回答した児童の割合は64.6%で、市の平均を8.6ポイント下回っている。生活の中に、学習内容を生かせる場面を見い出すことができるよう支援していきたい。

宇都宮市立横川東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・主体的な学びにつながるICTの効果的な活用	・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と答えた児童の割合は、4年生で87.4%、5年生で82.7%で県の平均を上回っている。 ・「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」の割合は、4年生は85.4%で県の平均を上回っているが、5年生は63.8%で、学年によって差がある。
・基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習(週3回15分間)の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・4年生、5年生の3教科の知識・技能の平均正答率は、市とほぼ同じであった。
・家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・「家で学校の宿題をしている」と答えた児童の割合は、4年生で95.1%、5年生で99.2%と両学年とも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語の話の中心を捉える問題では、市の平均正答率よりも低いものがあつた。また、国語に限らず提示された資料から問題点や伝えたいことを読みとり、理解することに課題が見られた。	・文章やデータを正確に読み取り、自分の考えを広げ深めるための交流の場の設定や発表方法の指導	ペア学習やグループ学習、全体の練りあい、聴き合うこと等の効果的な場の設定の工夫をするようにする。 また、文章やグラフなど資料から分かることを考察して書いたり話し合ったりする活動の充実に取り組む。教科横断的な視点に立った授業の工夫を行う。